

第7日

令和8年6月17日（水）

午後2時20分再開

○議長（小島清人君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、7番北川清文議員の質問を許可します。7番北川清文議員。

（7番北川清文君登壇）

○7番（北川清文君） 皆様、こんにちは。質問の許可をいただきました、7番議員の北川清文でございます。御多忙にもかかわらず、御来場いただきました傍聴者の皆様、そして、インターネットで御覧いただいております傍聴者の皆様、ありがとうございます。

今回4月に行われました朝倉市市長選挙におきまして初当選されました中島市長、就任おめでとうございます。朝倉市もいろんな面でいろいろと問題を抱えておりますが、よろしく願いいたします。

さて、今の世の中、いろんな事故、事件等が話題が絶えませんが、自然界の中でも凶暴と言われていて、熊の出現による人的被害や住民を脅かすニュースが、ここ最近多くなりました。今まで予想もしないような都会まで出沒しています。考えられないような出来事が起きています。

一方、朝倉市もマンション問題で有名になりました。SNS等で誹謗中傷等を受ける人もいるでしょう。このような世の中、時代になったのかなと思うと、心中を痛めます。

今回の選挙戦でSNS等の影響があったかについては定かではありませんが、正直者がばかを見るような世の中になってはいけないと思います。

今回の一般質問は、市長から所信表明が出されました内容につきまして、質問をさせていただきたいと思っておりますが、質問内容がほかの議員と同様の事柄になってくるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

朝倉市の首長として、朝倉市の未来に向かって、今後どのような対応、対策のお考えをお持ちなのか、市長自身のお気持ちを聞かせたいと思っております。どうぞ明解な答弁をよろしくお願いいたします。

これよりは質問席にて続けさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

（7番北川清文君降壇）

○議長（小島清人君） 7番北川清文議員。

○7番（北川清文君） それでは、通告書に従いまして、市長に質問をさせていただきたいと思っております。

最初の項目1、朝倉市の最重要戦略課題についてですが、それは若い力の流出をストップさせる、若者の流出に歯止めをかけることを最重要の戦略課題と位置づけるということを市長は掲げられています。

それに起因する事柄につきまして、質問をさせていただきたいと思っておりますが、朝

倉市における若者層の人口流出に歯止めをかけるには、経済、住環境、コミュニティなど、魅力的な選択肢を提示することが不可欠となるのではないかと私は思っております。

そこに何か魅力を感じさせるものは、人間性ではないでしょうか。つまり人材育成、それも幼少期から必要ではないかと思えます。家庭が安定した暮らしができるような、経済力を高める朝倉市をつくらなければいけないのではないのでしょうか。

現在、朝倉市にある企業もすばらしいですが、若者を外へ出さないことよりも、子どもの頃から、家庭は豊かなんだな、こんなおいしいものが毎日食べられる、自分も大人になったら両親みたいになりたい、この朝倉で生活したいと思うような対応、対策が必要であってほしいと思います。

ことわざに「かわいい子には旅をさせよ」と言われています。一旦外に出して、若者自身が自ら朝倉に戻りたいと思えるような環境づくりも必要ではないかと思えますが、市長はどのような思い、お考えがおりになるのか、お尋ねをいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私も北川議員と同じ考えでございまして、若いときはやはり都会への憧れとか、そういったものがあると思いますので、できるだけ人が多いところといいますか、そういうところでチャレンジするっていうのは大事なことはないかなというふうに考えております。

しかし、一方で選択として、地元に残って地元で頑張るという方もいらっしゃると思います。それは、私はその方はその方で、この地元の市長として応援をしていきたいというふうに思っております。

そして、もし外に羽ばたく若者がいるのであれば、いつでも帰っておいでと、待っているからというような、そういう市でありたいなと思っております。何かやっぱり懐かしさであったりとか、安らぎを覚えるような、言い古された言葉ですけれども、港であるような、そういったふるさとでありたいなと思っています。

そのためには、先ほど申し上げさせていただきましたけれども、まずは若いときに、ここに住んでないと、そういった思いはなかなか大人になって持ってもらえないのかなと思っております。

今はいろいろ無償化とかがありまして、高校も市外に出ることも容易になってきましたし、教育熱心であれば、小中学校、遠いところの学校に行くというのも選択肢としてはある時代だと思っておりますが、できることであれば、地元で幼少期を過ごしていただきたいなと思っております。

そして、過ごしていただいて、非常に心に残るような、そういった経験を積んでほしい。そういった人との出会いを重ねてほしいというふうに私は考えております。そういった経験があれば、必ず人は年を取ったら望郷の念というのがあると思いますので、帰ってきてくれると思っております。朝倉にはその魅力、そして、それを受け入れる環境があると思って

おります。以上です。

○議長（小島清人君） 7番北川議員。

○7番（北川清文君） ありがとうございます。市長も、そういう思いがあられるというようなことで、ありがとうございます。

①の魅力的な雇用の創出と多様化の起因についてお尋ねをしますが、若者が地元に残る最大の理由は、仕事ではないでしょうか。そこで、安定した仕事場の確保なり、若者向け、そして、現代にマッチした仕事環境の充実した居場所づくりが大事であると思います。

そこで、アのIT・リモートワークの誘致についてですが、光回線などのインフラを生かして、サテライトオフィスやコワーキングスペースを整備して、都市に行かなくてもできるデジタル仕事を増やすなどの対応が必要ではないかと思いますが、今日の13番議員の質問のときに少し出ましたが、私も思っていました朝倉の支所、それと杷木の支所の空き部屋を生かすなどがあるのかなという思いがございましたが、市長はどのようなお考えをお持ちでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 今の若い方っていうのは、私たちのときは、できるだけ大きな企業に勤めて、そこにずっと一生勤め上げるといいますか、そういう時代でした。

でも、今の若い方は自分で、何ですか、仕事を起こす、起業、スタートアップの考えを持っている若者は多いような気がします。私たちの頃と時代は変わったのかなと思っております。

そういった中で、繰り返しになりますけれども、旧杷木町役場と朝倉町役場が空いているのは、どう考えてももったいないと思っておりますので、そこを何とか活用できないかというふうに考えております。

そういった中で、議員がおっしゃりますように、リモートワークやコワーキングスペースとして活用可能か、それは調査研究をしていきたいと思っております。

福岡の大名小学校を見に行きましたらば、そういうスペースがありまして、やはり似た者同士が集まって、お互い刺激を受けながらやっていくというような姿が見えたので、それは十分可能性があるのかなと思っておりますので、そういうことが可能かどうか、突き詰めていきたいというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 7番北川議員。

○7番（北川清文君） ありがとうございます。ぜひ進めていってもらいたいというふうに思っております。

次に、イの観光資源・農業のブランド化と起業支援についてお尋ねいたします。

朝倉市の観光資源をブランド化するには、点在する朝倉市には、江川ダム、寺内ダム、小石原川ダムの3ダム、秋月三連水車、原鶴温泉、道の駅などあります。これを1つのストーリーでつなぎ、ターゲットに合わせた体験型コンテンツを進化させることが必要では

ないかと思われます。

観光資源を活用したベンチャー企業に対し、補助金や経営メンターをあっせんするなど考えられますが、市長は観光に対してのブランド化は、どのようにお考えでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 1つは、観光におけますストーリー化という言葉があります。例えば、林市長とかもおっしゃってありましたけど、水の回廊ですかね。水というキーワードで、ダムであつたりとか、山田堰であつたりとか三連水車を回る、こういったストーリー化っていうのは、一つ朝倉としては、水というのをキーワードにできるんじゃないかということを考えております。

また、今はコト消費、体験型の観光というのも非常に人気がありますので、こういったものは突き詰めていきたいと思っております。

私が最近可能性を感じてますのは、小石原川ダムのバイクの、あれ練習場と言っていいかどうか分からないんですけど、交通公園ですかね。交通公園、あそこの話をよく聞きますので、あそこのやはりバイクの方は、非常に聖地と言ったら変なんですけれども、いいので、あれも何か観光資源にできないかなと。

小石原川ダムの雄大さといいますか、あれは非常に体験価値があるんじゃないかなと思っておりますので、水機構の方といろいろ案を出しながら、可能性を探っていききたいと思っております。

あとブランド化ということで、旅のブランド化のことにつきましては、まだ私のほうはちょっと発想がありませんでしたので、確かに言われてみれば、朝倉の旅のブランドというのも大事だと思います。

ただ、ブランディングをするに当たりましては、やはりコンセプトを決めたりとか、それなりの準備をしていかないと簡単にはできないと思いますので、そこにつきましても研究をさせていただいて、私自身も少し勉強させていただきたいと思っております。

○議長（小島清人君） 7番北川議員。

○7番（北川清文君） ありがとうございます。私も体験型、これを思っていたところまでございまして、体験型のシフトがあればというふうに思っておりました。見るだけ、聞くだけではなく、物を工作するとか、フルーツ狩りをして、収穫した果物でオリジナルパフェ作りをするとか、楽しむ時間帯をつくり出すようなことができないのかなと思ったりもします。大人だけではなく、子どもと一緒に楽しく体験を加えた観光とかが思われます。

次に、農業のブランド化については、主な農産物は、米、麦、大豆、博多万能ねぎ、アスパラガス、苺、紅たで、トマト、鉢花、ナス、キュウリ、苺、柿、梨、ブドウなど多数あります。

また販売事業としては、普通作、畜産、野菜、果樹、特作、直売所など分かれると思

ます。

農業を取り巻く環境は厳しい状況にあります、ＪＡさん、改良普及長さん、また経営者の皆さんが一丸となって頑張ってお協力の下、農業経営が進んでいると私は思っていますが、市長は農業のブランド化を進めるに当たり、どういうふうなお考えがあるでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 農業のブランド化は、私が思いますのは、すぐ頭に浮かぶのは、やっぱり博多万能ねぎが浮かびまして、これの次のブランドっていうのは、市民が望んでいることだと考えております。

ただ、これも先ほど言いましたように、ブランディングをしていくに当たりまして、もちろん物がよくないといけませんけれども、価格であったりとか、それから売り方であったりとか、そういうのをきちっと組み合わせてブランディングをしていかないといけませんので、これはやはり農協のＪＡの皆さん、それから農家の皆様のお力を借りないと、行政だけでは厳しいのかなと思っております。

よく言われますのが、市役所は商売が下手ということ、ビジネスのことがあんまりよく分かってないというようなことを、お叱りを受けます。これはある意味、仕方がないことなのかなと思っております。やはりそれはなぜかと言うと、物を売ったりとか、そういったビジネスを私どもはしているわけではありませんので。

ただ、私どもは、市役所という行政という信用は持っていますので、こういった強みは持っています。ですから、私たちが持ってる行政という信用と、それと、ビジネスでの売ったりするような販路であったりとか、製品の付加価値であったりとか、そういったものを組み合わせていけば、きっと次のブランドっていうのは可能ではないかなと思っております。それは農協さんと話したりとか、農家さんとかと話してやっていきたいと思っております。

朝倉の食べ物はおいしいっていうのは、皆さんおっしゃられますので、朝倉の野菜がおいしいとか、食べ物がおいしいというのは皆さんおっしゃりますので、そこにあと一ひねりが必要だと思いますので、そこは何かということ、ある意味、農協の職員の方であったり、農家さんから、私どもが職員が執行部が鍛えていただいて、一緒に考えていきたいというふうに考えています。

○議長（小島清人君） 7番北川議員。

○7番（北川清文君） ありがとうございます。現在、朝倉市独自のブランド品は、博多万能ねぎと博多紅たでの2品目と聞いております。

米の元気つくし、イチジクやあまおう、柿、梨、ブドウ、博多和牛など、地産地としてはありますが、福岡県のブランドで、純粋に朝倉ブランドはごく僅かです。それだけブランド化するのは難しいことだと思います。

そう簡単にはブランド化できないというふうに思っておりますが、市長はブランド品、

今2種類の朝倉にはあるというふうなことを今、JAさんから聞いたんですが、そのほかどのようなブランド品を創出していかれるのかなというお考えありましたら、お聞かせ願いたいと思いますが。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） これ、すみません、ブランドと言ったら具体的には考えていないんですけれども、ただ、私がやりたいなと思っていることは、「フルーツの里」という代名詞を取り返したいと考えています。

今、「フルーツの里」と言うと、うきはのほうを指すようになってしまいましたので、やはり昔は朝倉は果物がおいしいというところでしたので、「フルーツの里」というのはブランドではありませんけれども、この代名詞は取り返したいなと考えております。

○議長（小島清人君） 7番北川議員。

○7番（北川清文君） ありがとうございます。大事なことと思います。そういうようなブランド品になっていくといいなというふうに思っております。

これから、若者も農業に魅力を持って、経営が持続していかれるような支援をすることが重要であるというふうに思いますが、でも、市独自での支援は無理だと思います。県・国からの支援なりが必要になってくると思いますが、市長は農業のブランド化への支援については、どのようなお考えがございませうか、お尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 国・県を通じての支援というところは、まだ私、詳しく承知しておりませんので、ここのところはきっと窓口があると思いますし、何ですか、県のあれ、農業指導センターでしたっけ、福岡県、改良センター、すみません。改良センターなんかもございまして、そこら辺の所長さんとも、この前、御挨拶をさせていただきましたので、そういうのを含めて、そういった道というのは、これから学んでいきたいというふうに思っております。

残念ながら、今の時点では、すみません、詳細な知識を持っておりません。申し訳ありません。

○議長（小島清人君） 7番北川議員。

○7番（北川清文君） ありがとうございます。突然な御質問で申し訳ありませんが。

次に、ウの地元企業と学生のマッチングについてお尋ねをいたします。

商工観光課等を中心に先頭に立たれて、地元企業側から高校生向けに、少しでも地元企業に残ってもらいたいという思いもあって、地元企業の説明会等も実施されてありますが、地元の優良企業を知る機会が少ないため、高校生や大学生向けのインターンシップや合同説明会等を、今後、市長はどのように展開していこうとお考えでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 要するに、中小企業の地元の経営者の皆様は、とにかく募集しても人が来ないとおっしゃられます。そして、一方では、朝倉市には働く場所がないというような声を聞きます。

そこで、ミスマッチが私は起きているというふうに考えてるんですが、地元と学生のマッチング事業につきましては、若年層の市外流出を抑制して地域経済の活性化を図るために、高校生の就職支援を実施しています。

令和7年度より実施しております、地元企業と高校生のキャリアガイダンスは、市内及び近隣の高校に在籍する1年生と2年生を対象に、早期段階から就職意識を醸成すること。それから、生徒・先生が地元企業を知る機会の創出を目的としまして、地元企業の担当者から業務内容や企業の魅力等について、直接説明を受ける機会を対面形式で実施しているものです。

令和7年度の実績は、高校生が350名、市内企業26社が参加をしております。参加した生徒からは、これまで知らなかった企業を知ることができ、進路の選択肢を広げることができたといった意見が寄せられておりまして、一定の効果があったものと考えております。

この周知につきましては、まず対象となる生徒、学校及び保護者への周知を優先的に実施しています。また、地元企業が仕事の紹介動画を作成し、市のホームページに掲載をしておるんですけれども、市役所のデジタルサイネージを使いました情報発信を行っております。

今、るる述べましたけれども、まず高校生の方は、地元にこういう企業があるっていうのを、当たり前といえば当たり前かもしれませんが、あまり御存じない。ですから、こういう機会を生かしていただきまして、地元にこういう企業があるんだということを、まずは知っていただくことから始めないといけないのかなと思っております。

ただ、一方で、今これだけ、何というんですか、進学率が上がりまして、高校生がさほど就職をしなくなったといえますか、高校生の分母がやはり少なくなっているのかなというのも一方で実感をしております。

本当であれば、大学生は必ず就職を、大学院に行かない限りはしますので、大学生を対象とした、そういった会を開ければ一番いいんでしょうけども、なかなか大学生を対象とした会を開いてませんといえますか、つかみ切ってませんので、ここの大学生のほうに、どうやって周知をして会場に来てもらうのか、これを考えていかないといけないなと思っております。

それと、今言いましたように、デジタルサイネージで紹介動画を上げているんですけども、T i k T o k じゃありませんけれども、動画としては非常に完成度が高いと思うんですが、そんなに好んで見るような動画ではないと思いますので、いかにそれを見せるか、こういったのも工夫が必要だねということを市役所の中で話しております。

○議長（小島清人君） 7番北川議員。

○7番（北川清文君） ありがとうございます。350名も参加されたんですね。市内の企業さん25社ですか、多くの企業の方が説明に来られたちいうようなことで、ありがたいことですね。これがまた繁栄すると、また活気づいてくるんじゃないかなというふうにも思ったところでございます。

次に、（2）の子育て・住まいに対する応援についてですが、結婚・出産のタイミングで流出を防ぎ、逆に戻ってきたくなる環境をつくる対策が必要ではないかと思われませんが、そこで①の若者・子育て世代向けの住宅支援についてお尋ねいたします。

空き家バンクの活用をさらに進め、リノベーション費用への大胆な補助金や、定住を条件にした格安の市営公営住宅を提供するなどの対応も考えられますが、市長はどのようなお考えをお持ちなのか、お尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 先ほども質問の中でも申し上げさせていただいたんですけども、空き家というのはリフォームをして、これからインフレが来まして、物の価格が上がっていく中で、有効な資産になるんじゃないかと、朝倉市の中で。それを活用していきたいというふうに思っております。

そういった意味で、若い人たちが、まずどこに住もうというところで、例えば朝倉市に住もうと思って住んでいただければ、そっからよっぽど不満がない限りは、しばらくの間はいていただけるのかなと。

そして、しばらくいれば、そこに、前から言いますように、若い人じゃないですけども、思い出があったりとか出会いがあったりとかして、愛着を持ってもらえるんじゃないかなと思っておりますので、そういった意味で、まず住んでもらうっていうことは必要ではないかと思っております。

ですから、住宅施策というのは、大きな柱の一つだというふうに考えております。

朝倉市は福岡市に近いという、そういう地の利があります。強みがありますので、住まいの面からも、選ばれるまちづくりが可能だというふうに思ってます。

朝倉市の住宅補助金とか子育て世代定住促進事業、それから住宅取得等資金利子補給、それから、あさ暮らし住宅リフォーム事業、空き家バンクなど、様々な事業をやっております。私も市長になりまして改めてメニューを見ましたらば、こんなにあるんだと思うぐらい、メニューは豊富です。

しかし、それがいま一つ周知されていないのかなと。こんだけあるけれども、多分若い方は知らないんじゃないかなと思っておりますので、その周知の仕方というのは大事じゃないかなと思っております。

また、これを周知していただいて、若い方にやっぱり申し込んでいただかないといけませんので、これの利用促進につながる。どうやってたくさん利用してもらうかという、その促進の方法については、今後検討していただく必要があると思っております。

何か朝倉市に住んだらお得だよねと言われるような、そういった空気と言ったら変ですけども、若者の間で、朝倉市でちょっとチェックしてみないというような、例えば田舎暮らしのランキングの3位になったとか、そういったいい話はいっぱい転がってますので、そういったイメージを持っていただくように、政策の運用の部分、そのところは工夫が必要だと考えております。

○議長（小島清人君） 7番北川議員。

○7番（北川清文君） そういった宣伝といいますか、そういったものをしっかり外に出して、そういったアピールをするというようなことも大事かと思いますね。

続きまして、②の子育てコストの削減についてお尋ねいたします。

これは医療費の無償化の対応の拡大、また給食費の完全無償化、病児保育の充実など、福岡市より圧倒的に子育てしやすいまちとして差別化するなどの対応も考えられますが、市長はどのようなお考えをお持ちなのか、お尋ねをいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 子育てにつきましては、これは私の個人的な考えかもしれませんが、本来、子育て支援というのは国が主導していて、日本全体で子育て支援がしやすい環境をつくって、出生率を増やすような取組をすべきと私は個人的には思ってます。

福岡市に住んでたら、何か安く子育てができて、田舎のほうに住んでたら、子育てが費用がいっぱいかかるっていうのは、何か平等じゃないよねと思っております。

ただ、現実的には、自治体間の競争は激しく、サービスが充実しているところに若い人が集まるというのも現実がありますので、首長としては、そのところは自治体間の競争には勝ち残っていかないといけないと思っております。

そういった中で、まず私が個人的に思っておりますのは、今はシングルマザー、シングルファザーの方も多いですので、シングルマザー、シングルファザーとかいう方は、多分子育てって大変だと思います。

でも、朝倉市は、そういう方々を見てますよと。ちゃんと応援してますよっていうような姿勢は、市長として見せたいと思ってます。もちろん両親共にいる方の子育ても応援していくんですけども、厳しい環境の中で、そういう方にも応援をしたら。そういったメッセージは、私は出していきたいというふうに思ってます。

一番いいのは、財源がたくさんありましたら、そういった方に、それこそ物すごくただにしますとかいうような形で、安くコストを抑えるような支援策というのを出すのが一番いいんですけども、やはり将来の朝倉市の競争力を失うわけにはいきませんので、財政状況であったりとか歳入歳出の見通し、それから、今やってる事業の効果なんかを見極めて、そこら辺を精査して行って、一時的に市長がやっていますよというような感覚を私も見せたいと思ってます。

ですけども、そこはやっぱり慎重に、長く支えるような仕組みをつくっていかないと

いけないかなと思ってます。やはり財政規律と実効性といいますか、そこは両立しないといけないかなと、そういうふうに自戒をしております。

ですから、じゃあ、何をするのかっていう話になりますけれども、朝倉市でも、この施策については重要な施策だというふうに思っておりますので、先ほど言いましたように、精査をする時間を少しいただきまして、働きながら安心して子育てができるまち、こういったイメージはやはり持ってもらわないと、若い人たちにそういうイメージを持っていたかかないと朝倉市は選べれないと思いますので、そういった施策というのは進めていきたいというふうに私は考えています。

ただ、少し精査をするお時間をいただきたいと思います。財政の部分の規律というのは非常に大事です。お金がなかったら、使えるお金が少なくなれば、将来の選択肢っていうのは、ぐっと狭まってまいりますので、このところは慎重にやっていきたいというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 7番北川議員。

○7番（北川清文君） 市長の気持ちを、施策をぜひとも見せてほしいと思います。期待をしております。見せてほしい、それから、絶対見せてください。

次に、（3）の移動・生活インフラの利便性向上についてですが、福岡市という大都市に近い、先ほども市長も言われましたが、強みを生かすような支援の方法があるのではないかなというふうにも思います。

それで、①の都市圏への通勤・通学についてお尋ねをいたします。

甘木鉄道や西鉄バスなど福岡市中心部へのアクセス環境を維持強化し、朝倉市に住みながら、天神・博多へ通勤・通学するライフスタイルを支援するようなお考えがありましたら、お聞きしたいと思います。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） もちろん御存じだと思うんですけども、朝倉市には甘木鉄道があって、西鉄の甘木線があります。2本の鉄道が通ってます。

そして、バスは朝倉街道まで行く主要幹線のバスと、400番のバスと言いまして、博多駅のほうに都市高速を使っていくバス。それから、高速バスの5つがそろってます。私は非常に恵まれたまちだと思っています。

そういった中で、これらの交通の利便性を上げるということは、やはり若い方は都市に簡単にアクセスできるっていうのも、一つの魅力の判断材料といいますか、魅力の一つとして、住居を選ぶ判断材料の一つになっているのではないかなというふうに思ってますので、そういった意味では、この路線の存続や強化をしていかないといけないというふうに思っております。

例えば、朝倉市に住んでても、福岡の職場に行けますよ、久留米の学校にもアクセスが楽ですよと、そういったことをアピールいたしまして、人口流出に歯止めをかける効果を

得ていきたいというふうに考えます。

そういった中で、先ほど言いましたように、3つのインターチェンジがありますので、その高速バスという切り口で、甘木インターチェンジであったり、そういったところのパーク・アンド・ライドの推進っていうのは、図っていくことが朝倉市の魅力を高めるといふふうに考えておりますので、活用していきたいというふうに考えております。

将来の選択肢として、パーク・アンド・ライドの強化といえますか、それは検討していきたいというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 7番北川議員。

○7番（北川清文君） パーク・アンド強化、それもぜひとも、そういったものにもしっかりと挑戦、市長が言われますチャレンジ、それしっかりと期待をしておきたいというふうに思っております。

次に、4番の若者が主役になれるコミュニティづくりについてですが、若者が自分の居場所がある、まちを変えられると感じられる関係性を築くような環境づくりも大切じゃないかなというふうに思います。

そこで、①のまちづくりへの若者の登用についてお尋ねをいたします。

高校生の提言などは行っていますが、イベント企画等に、高校生や20代の若者の意見を取り入れられるような若者会議や懇談会を開催して、提案、意見が反映できるようなこともあるかなと思いますが、市長のお気持ちはいかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私は若い人にチャレンジをしてもらえるまち、朝倉を目指しています。それは、若い人が私たちの年代のバトンを引き継いでもらわないと、この市の存続はないと考えているからです。

そのために、若い人が活躍してみよう、朝倉市のために動いてみようというような、そういった空気を私自身がつくっていかないといけないと思っております。若い人たちに、今まで少し遠慮をしてたけれども、前に出てほしいというふうに考えてます。

そういった中で、じゃあ、どういったことをしていくのかということで、私がイメージしておりますのは、例えば議員の皆様は御存じだと思いますけれども、寺内ダムのカンパ場なんかは、市の職員の若い人たちが、あそこをどうか活用したら、どういうふうに活用しようかということで、アイデアを出しながら、今カンパ場を整備して、今そこそこの人気を得ております。

そういった形で、何か若い人に行政としてお題を与えてやっていくっていうのも面白いんじゃないかなと思ってます。

例えば、先ほど熊本議員が売店の話なんかをしてましたけれども、じゃあ、売店が、例えばもう少し充実した売店にするんだったらどうしたらいいのかとか、それとか、よく皆さんが市役所に対して言われるのは、食堂がないということを言われるんですけども、食

堂がないんだったら、じゃあ、どうしたらいいんだと。

そういったことを若い人にお題を与えて考えてもらう。例えば、商工会の人と一緒にあって、若い人にアイデアを出してもらうとか、そういったことは可能ではないかなと思っております。

若い人はやはり柔軟な発想を持っておりますので、それを朝倉市として生かしていけるような、そういった風土といいますか、カルチャーを私はつくっていきたいというふうに考えてます。

○議長（小島清人君） 7番北川議員。

○7番（北川清文君） ぜひとも、そういった環境づくりに力を入れてほしいなというふうに思います。よろしくお願いいたします。

次に、②のカルチャー・交流の場の創出についてお尋ねをいたします。

若者が集まれるカフェ、アートスペース、音楽イベントなどの開催を官民連携でバックアップするような対応については、市長はどのように思われますか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 議員がおっしゃられる音楽フェスとか、カフェとかですね。とかアート展とか、そういった取組をしていいかという御提案に関しましては、やはり若者は割かし取り組みやすいといいますか、親近感を持つような取組ではないかというふうに考えてます。

若者の定着には、雇用や住まいといった面の充実ももちろん重要ですがけれども、それとは同時に、昨日、心理的な安全性っていうことを申し上げましたけれども、自分の意見を言っていいたと。そういった安心感であったりとか、このまちでは面白いことができるというような、そういった楽しさであったりとか、アートとかですので文化的な魅力、そういったものも欠かせない要素であるというふうに思っております。

音楽やアートやカフェといった場合は、若者の閉塞感の解消であったりとか、自己表現の機会になるのではないかと考えております。そして、若者つながりで、市内外からの人を呼び込む、交流とか観光の起爆剤にもなるのではないかというふうに思っております。

こうした場づくりにつきましては、朝倉ならではの個性、人の個性である、何というんですか、温かさとか優しさ、そういったのが、私は非常に親和性があるのではないかなと思ってます。朝倉の人っていうのは、いい人が多いっていうことを方々で聞きますので、そういった可能性があると思ってますので、地域に根差した形で若者の表現の場を、朝倉の魅力発信の分と結びつけていきたいなと思ってます。

今、るる申し上げましたけども、こういった取組というのは、決して行政だけでは完結いたしません。ただ、行政は信用を持っておりますので、一過性では終わらない、息の長い、そういった民間事業者や地域団体と一緒にあった、そういった仕組みをつくりまして、そして行政が影で支えるような、そういった場づくりができればいいなというふうに考え

ております。

○議長（小島清人君） 7番北川議員。

○7番（北川清文君） 若者の発想というのは、本当自分たちの知らない、いろんな発想を、思いつかないような発想の下に来られる可能性があると思います。

そういった中で、若者がそういったものができるような形の分で官民は連携して、そういったものはやっぱしていかないかんというふうに思ってますので、ぜひともそういうふうな体制を取ってもらいたいというふうに思っております。

次に、2、災害復旧と自然環境の保全についてです。

（1）の災害復旧に対する思いと今後の取組についてお尋ねいたします。

8番議員の言われたことと一部同様な思いと、どう質問になるかと思いますが、丁寧に対応をお願いいたします。

前林市長の後を継いでと言われてありましたが、前林市長の思いは、あの平成29年の災害後は完全に復旧していなかった。そして、その後も、再び災害が発生した爪痕の復旧・復興を完全にやり遂げようという思いがあられたに違いないと私は思っていました。

そこを中島市長がしっかりと受け継いでいかれる気持ちが出される所信表明だと思って、市長の所信表明を拝読させていただきましたときに、災害についての対応等の文言が出てきていませんでしたので驚きました。

あの平成29年九州北部豪雨災害から9年が経過しますが、忘れたわけじゃないですよ。市長は災害当時の議長もあられましたね。市・県・国の職員の方々は、災害対応に疲弊されているのに、大変な思いで何年も災害対応に苦勞されてきてあります。感謝しかありません。災害の爪痕は残っています。

今後、まだ今から杷木地区の寒水川河川工事や小石原川などの極めて重要な工事が残っていることは御存じのことと思いますが、過去に発生した災害の記憶を風化させることなく、次世代へ伝えていく取組も不可欠であると思います。

災害復旧に対する思いと今後の取組について、市長の気持ちを、またお考えをお聞かせ願いたいと思います。

まず、災害に対するお気持ちをお聞かせください。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私、どうしても災害といいますと、地震とか台風とかありますけれども、ゲリラ豪雨、どうしても豪雨災害のほうを一番に頭に浮かびます。

そういった中で、治水——水を治める、この対策っていうのは、朝倉市の行政の長としてしっかりと抑えていかないといけない、大事な重要な課題だと考えております。

そういった中で、まだ進行中の分もございますので、重視して首長として、それには取り組んでいきたいというふうに考えております。

そして、昨日、最後まで寄り添いますということをお約束いたしましたので、それは約

束を守らせていただきたいというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 7番北川議員。

○7番（北川清文君） では次に、今後の取組についてお聞かせください。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 治水対策として、まだまだ進行中の分があります。小石原川の部分もございますし、佐田川のほうもございますし、杷木のほうの寒水川のほうもございます。

そういった中で、市としてしっかりと取り組むと同時に、国や県の力をお借りしなければできない、これは大きな課題です。

朝倉市は、これまでもダムの建設に協力し、治水の面で恩恵を得ているところですが、小石原川の整備と併せて、さらなる3つのダムの有効活用として、ダム群の再生事業の必要性についても、国土交通省、水資源機構に働きをかけていきたいと考えております。

林市長が進められた市政をしっかりと継承して、治水の面、利水の面で市民の皆様のメリットとなるように、行政を進めていきたいと考えております。

○議長（小島清人君） 7番北川議員。

○7番（北川清文君） まず、市長としての分で、職員の方々、ほかの方々に感謝の意をしっかりと示してほしいと思います。伝わってこない面が多々あります、正直言って。そこをしっかりと心を込めて、それも感謝をしていただきたいというふうに思っております。

そして、またそれは、今言われましたように、県とか国のやっぱり支援が大事でございますので、そこら辺のところをしっかりと首長として働きかけていただいて、今後また、しっかりと完全な復旧がなされるような対応、対策を取ってほしいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2の自然環境の保全に対する考え方についてお尋ねいたします。

私たちに幼少期から環境の大切さを伝授しながら、朝倉市の環境のよさ、清らかな清流、森林の美しさ、生き物の生息環境など、すばらしい大事なものがこの朝倉市には満喫していますが、当たり前のように生活している私たちも、もう少し温故知新の気持ちを持って、日常生活を振り返る必要があるのではないかと私自身が思っておりますが、市長は朝倉市の自然環境をどのように捉えておられるのか、どのような思いがあるのか、お聞かせください。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私は、朝倉市はやはり水も滴るいいところということで、やはり清らかな清流っていうのを一番に思っております。

そういった中で、朝倉市の河川や自然環境が大変いいことの証明として、蛍というのがあるのかなと思っております。

そういった蛍だけではなくて、自然環境の中で暮らしている魚や動物、こういったもの

が豊かである。そして、その豊かさの上に、私たちの朝倉の市民の皆様の穏やかさとか温かさがあるのではないかと考えております。

ですから、朝倉市の自然というのは、朝倉市としては切っても切れないもの。朝倉市の自然は、朝倉市の代名詞だというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 7番北川議員。

○7番（北川清文君） 今、市長も言われましたが、蛍、今は夏の風物詩でも言える蛍の時期であります、今年は蛍の乱舞時期が少し過ぎたような感じであります。

朝倉は、どこに行ってもどこでも蛍が見られる。そのような環境づくりも必要ではないでしょうか。

災害でよどんでいた川が、やっとどうにか蛍の出るような環境に戻りつつあります。水のきれいなところしか蛍は生息しません。朝倉は「水ひかる朝倉」とうたっているのですから、蛍の出る環境をつくり、朝倉市に光をともしたいというふうに思っております。

市長、蛍に限らず生き物、生息している生息環境がほかにあると思えばありましたら、その生き物に対する思いを何かございましたら、よろしいですか。お願いいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） すみません、生き物って言うと漠然としていますので、蛍の話をさせていただきます。

蛍といえば、光る昆虫ということなんですけれども、私はそのはかなさや自然との共生に蛍の魅力というのはあると思っています。

我々日本人は、古くから桜に代表されるように、永遠に続くものよりも、一瞬の美しさや季節の移ろいに心を寄せてまいりました。いわゆるものの哀れの文化だと思っています。

蛍も1年を通して見るものではなくて、限られた時期にのみ、その幻想的な光を見せてくれますので、だからこそ人の心を引きつけて特別な存在だというふうになっております。

蛍は、議員おっしゃいますように、豊かな自然環境がなければ生息ができません。蛍が飛び交うということは、地域の自然環境が健全に保たれているというあかしでもあります。

朝倉市は水に育てられたまちであり、筑後川の清らかな水、豊かな里山の自然に恵まれて、その恩恵を受けております。そうした朝倉の自然の象徴が蛍でもあると思っています。

蛍は単純に観光資源として捉えるのではなくて、この朝倉市の自然の価値を伝える大切な存在として、次の世代に子どもたちにぜひとも残したいと思っています。それが朝倉らしい暮らしだというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 7番北川議員。

○7番（北川清文君） ありがとうございます。今回出されました市長の所信表明は、若

者を中心とした基本的な朝倉市の発展について述べられていると思いました。子どもから高齢者までの幅広い年齢層の対応も考えてもらいたいと思います。未来も大事ですが、今を大事に充実させないと、未来はないと私は思います。

市長が思いの選挙公約パンフレットに、「若返れ！朝倉！！新たな活力を生み、若き人材を育てる。」のキャッチフレーズの実現に向けて、若者が集う地域をつくるように、行政、そして地域が一丸となって頑張っていけるような、市へのかじ取りを期待しております。

これをもちまして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（小島清人君） 7番北川清文議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後3時40分に再開いたします。

午後3時28分休憩